

事業活動実績報告書

施設名	新小岩ちぐさ幼稚園
教育理念	大地に根を張る“千の草”のように、どんな環境にもめげずに、逞しくなやかに生き抜く力。夢と希望をもって努力し、豊かな人生を歩める力を育てる教育。

事業の区分 (5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現
1 事業名	SDGsへの意識の芽生え
2 実施期間	令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【募金活動】その1 ユニセフの学校募金活動セットを利用し、4月から保護者に募金の呼びかけを行い始めた。子どもたちにも絵本「ユニセフと笑顔のひみつ」等の絵本により募金の大切さを伝えた。運動会や発表会等の大きな行事では、子どもたち自身で募金の呼びかけを行った。1年間の募金を、年長組が代表し、直接ユニセフハウスへ届けに行った。ユニセフからの感謝状やお手紙を振り返り、翌年の活動内容を自分たちで話し合った。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 1月 24日 ~ 令和 6年 1月 24日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【募金活動】その2 1年間集めた募金を届けに行く際、ユニセフハウスを訪問し、世界中の子どもたちの現状を知るシアターを見たり、ハウスの係りの方による展示の案内や説明を受け、自分たちが行ってきた事の意味や大切さを理解し、「募金」というものの必要性を体感した。また、その「募金」の使われ方を理解することで、自分たちとまったく異なる世界の情勢に触れる機会になった。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 1月 10日 ~ 令和 6年 1月 10日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【外部講習活動】その1 フェアトレード、資源の大切さを学ぶため、事業ゴミを利用した巾着袋作りを行った。江戸川区にある企業に協力してもらい、フェアトレードの講習を受け、安価ではない適正価格で得たコットン巾着に、その企業で出たゴミの端材で飾り付けをした。作った巾着は、園のコップ入れや延長保育の持ち込みお菓子入れとして、子どもたちが好んで利用している。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 1月 24日 ~ 令和 6年 1月 24日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【外部講習活動】その2 年長組で水族館を訪れた時、開館前の時間に「イルカと海のゴミ」についての講話を聴いた。事前に海の生物について調べて行ったが、自分たちの身の回りのゴミが、その海の生物たちに密接なつながりがあることを知る機会となった。</p>	

3 取組概要	(取組日) 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【自然教育活動】その1 間伐材を用いた工作、ドングリや葉っぱを利用した工作を行い、素材の性質や楽しみ方を知った。工作は地域の子育て世帯にも開放して、在園児以外も楽しんだ。間伐材の工作は不定期に行い、様々な木の素材に触れる機会を作った。ドングリは日ごろかた公園等で集めて持ち寄り、園の工作に使ったり、状態が良いものはドングリ貯金をし、苗木の種としてNPOへ送っている。</p>	
	(取組日) 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【自然環境活動】その2 プラスチックゴミの削減や、身近な自然に慣れ親しむように、玩具の木製化を進めている。大切に玩具を扱うこと、それぞれの材質を知ること、汚くなったら自分たちでヤスリをかけること等、プラスチックでは得られない玩具との関わりを知ること、自然環境にプラスして、ゴミの問題、森の問題を考えられるように約束事を決めて取り組んでいる。また、木の玩具は地域の子育て世帯にも開放している。</p>	
	(取組日) 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【園内啓蒙活動】 テーマ別の絵本を取りそろえ、繰り返し読み聞かせを行っている。葛飾区SDGS宣言を行い、園児や保護者と何ができるかを長期的な計画として話し合いを進めている。</p>	
	(取組日) 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【職員研修】 継続的に一定の水準を維持したSDGS教育を続けていくため、管理職のマネジメント研修、職員の実践実習を行った。マネジメント研修では私学財団公開講座の国谷裕子による講演等、保護者を含め説得力のあるSDGS教育推進のための知識の獲得、実践実習では木育インストラクター講習、都私連の自然遊び講習等の実践的な講習を受け、スキルを向上させた。</p>	<p>写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	(取組日) 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>【活動の評価】 頑張った募金活動が評価され、ユニセフから「2023We Support UNICEF」の評価をいただき、子どもたちの喜びとなり、次年度の目標となった。また、幼稚園児のユニセフハウスの利用を有効性を実感し、ユニセフをプログラムを考えた結果、ユニセフのパンフレットに載り、ユニセフハウスの利用を広く周知するための広告となった。</p>	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p>	<p>写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>

効果検証報告書

施設名	新小岩ちぐさ幼稚園
教育理念	大地に根を張る“千の草”のように、どんな環境にもめげずに、逞しくしなやかに生き抜く力。

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
------------	--------------------------

1 事業名	SDGsへの意識の芽生え
-------	--------------

2 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の実現を担う子どもたちへ、SDGs教育、とりわけゴミの削減やリサイクルに関する意識を芽生えさせ、貧困等の高度な分野への理解に取り組む。 ・低予算の日々の活動と、予算の必要なインパクトある行事に分けて取り組み。園自体も、当事業後にも継続的に取り組める体制作りを行う。
--------	---

計画時	3 実施体制	<p>取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況</p> <p>【人的資源】 日常保育内では、常勤11名(園長、副園長含む)、非常勤2名 イベント時は、上記にアルバイト3名と、系列施設からの補助2~3名程動員可能。 緊急救命9名、知育関連3名、絵本2名、ECEQ1名</p> <p>【環境資源】 区民農園契約中(2年目)、植林祭や収集車連続参加、バザー・譲渡会・社会見学実績有</p>
-----	--------	--

事業後	3についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>【人的資源】木育インストラクター2名取得、自然環境関連研修2名受講、管理職のSDGs研修受講。SDGs教育に向けた教師理解に繋がった。今後は、貧困・水・ゴミ・資源等の分野毎の研修で理解を深めて行きたい。また、教師自身がSDGsを実践できるように、研修や他社との連携を深めたい。</p> <p>【環境資源】区民農園契約3年目、ピオーブ整備で、食や生物、自然環境に関する環境整備を進めることができた。また、環境にやさしい教具は、木材を中心としたもので、在園児のみならず、連携の保育園や地域の子育て支援にもSDGs意識の芽生えにつながった。</p>
-----	-------------	--

計画時	4 事業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・5領域の中の「環境」についての新たな解釈として注目をされている、持続可能な社会実現の為の取り組み。自然や社会の現象に興味を持つべきことが、何よりも大切になる時代の中、「環境」のみならず「健康」や「言葉」等可能な限り拡大できるよう工夫をし、未来を生きる為の、SDGsを意識するベースを子どもたちに作ります。 ・従来行っていた社会見学、ベルマーク活動、リサイクル工作講習会、葛飾ゴミ収集車イベントなど、既存の行事をスケールアップし、よりSDGsを意識した社会見学、募金活動、譲渡会やイベントの実施を通じて、子どもたちに明確に伝わるように図っていきます。 ・事業が継続できることも見据え、子どもたちだけではなく、その指導にあたる教員が研修を受け、事業終了後にも同じ水準の内容を維持できるようにします。
-----	----------	--

事業後	4についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>・元々行っていたゴミ収集車分別イベントや、社会見学会は、それぞれが単発の行事として行われていたが、SDGs17の目標を意識することで、社会見学会に海の生き物についての学びを取り入れたりと、リサイクル工作に間伐材や企業ゴミを取り入れたりと、どんぐり貯金や募金活動、ベルマーク活動等の身近な活動を取り入れたりと、個々の行事が連続性をもち体系だてたねらいを持って行うことができた。また、従来の行事を拡張させたものはもちろん、日々の廃材工作の表現活動や手洗い等の生活指導でも、SDGsに関連づけて目標とすることができ、全体的な質の向上につながった。</p>
-----	-------------	---

事業後	5 取組の内容	<p>計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等</p> <p>【園児】・9月間伐材工作会・10月運動会募金活動・12月遊戯会募金活動・1月企業SDGs・1月社会見学、ユニセフハウス・2月どんぐり貯金・ジャガイモサツマイモの栽培収穫・分別ゴミ会</p> <p>【保護者】・4-12月募金活動・9月間伐材工作会・12月SDGs講習会・2月どんぐり貯金</p> <p>【地域】・9月間伐材工作会・木の玩具開放</p> <p>【園環境整備】・SDGs研修3名、インストラクター研修2名、環境マネジメント研修1名・全室インバーターエアコン化・人工池整備・木の玩具整備・絵本の整備</p> <p>【内容】SDGs17の目標を本格的に学ぶ小学校以降、子どもたちがその知識を経験としてすんなり受け入れられるため、広く浅く多岐にわたり経験するようにした。特に募金活動は発表会衣装で行ったりと園児自らの考えで主体的に動けるようにした。ユニセフハウスでは、自分たちのやってきたことの大切さと本当に感謝されるという経験を得た。すべての活動でSDGsを意識した。</p>
-----	---------	--

事業後	5についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>・従来の活動に合わせ、特色教育推進事業により不可能であった活動にも取り組めたため、「SDGs」という言葉の認知率はほぼ100%になった。年長児は、意味までも理解することができたが、「戦争の国を助ける」や「イルカをゴミから救う」等、細目の理解にとどまる子もおり、自分の行動が世界を救うという大きな目標には実感がわかないようであった。しかし、ユニセフサポート賞、葛飾SDGs宣言、木の玩具屋からのお礼状(子どもたちがメンテナンスしている様子を送付した)等が、子どもたちの意識の変換期になったので、今後はSDGsに取り組む様々な事業所と連携をしていきたい。</p>
-----	-------------	--

<p>6 環境構成</p>	<p>【日常の活動例】 <ボトルキャップ>導入絵本『せかいでいちばん おかねもちのすずめ』、ペットボトルキャップの寄付を提案し、クラス内に収集箱を手づくりで設置し、皆で集める。※上記絵本や「もったないおばあさん」等、楽しめるSDGs関連絵本の整備 <募金活動>定期的に募り、積み立てつつ目標額を設定し、随時保護者へ報告。最終的にユニセフ募金へ寄付を行う。※保護者会等で募金を募る。予算なし <分別活動>ゴミの分別を知り、どんなゴミが何に変身するのかを知る。※清掃局と連携。 【イベント・行事例】 <譲渡会>土曜日に行う。園児は自由参加。卒園児や一般の方の参加も可能、フロア2部屋を開放し、各家庭より募った衣服やおもちゃ等を譲渡します。途中に、エコ工作コーナーや、エコサイエンスパフォーマンスの出し物などで、活発な活動にする。※公演料、チラシ印刷費や人件費 <社会見学>観光バスを手配し、年長組のみ実施する。年間を通じて行ってきた活動の集大成として、水族館での講習やユニセフハウスでの見学を行い、体験型の学習を行う。※観光バス手配料、入館料、昼食費、補助人件費等</p>
---------------	--

<p>事業後 6についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等 環境構成については、職員が研修で学んだことや新たな取り組みの紹介等で大きく変わる部分もあった。募金活動の為に絵本の整備、ユニセフ備品の活用、地域開放事業での間伐材講義、清掃局との取り組み等の従来のものに加え、特色推進事業により、地域の業者と連携したフェアトレード工作やどんぶり貯金箱設置、海の生き物講習等、エコサイエンスパフォーマンス等の楽しむだけで終わりそうなものよりも有意義な活動につながられ、ちょっとしたゴム風船飛ばしの時に、子どもたちから「海のごみにならないのか?」という疑問がでる程になった。ただ、譲渡会等、実行に至らなかった企画もあり、毎年同じことではなく、3年間を通じて学ぶSDGsになるように環境を整えていきたい。</p>
----------------------------	--

<p>7 期待される効果 児童の姿</p>	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・寄付や募金活動により、自分自身が誰か必要とされる存在であることを体感でき、その目的を学ぶことで、貧困について、戦争について、飢餓について、様々なことに触れる。 ・世界有数の森林率を誇る日本を誇りあることと捉え、木にまつわる知識や経験を遊びの中から学び、別に学ぶフェアトレードの意識からも、何でも安易にプラスチックが良いという概念にならないように、自己中心性の脱却や自然への愛着を持つ。 ・自身の得た経験を、地域子育てひろばや園庭開放等の子育て支援事業との合同イベントで、幼い子たちに披露することで、自分のSDGs知識の深まりや、年下の子への優しさへつなげる。 ・社会見学では、難しい内容でも、普段から自分たちが活動してきた経験から、世界という大きな規模での思考を身に着け、多様な生活や問題を知ることによって、これからの社会を担う上で必要な思考を獲得する。</p>
---------------------------	---

<p>事業後 7についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等 ・募金活動については、ユニセフハウスの普及チラシに掲載されることもあり、子どもたちの心に深く印象に残る活動となった。当初は少し難しいのではないかと思っていたが、実際の銃器の重さを知ったり、何時間も運ぶ水がめを体験することで、子どもたちは別の世界の様子について驚く程理解を示した。また、畑活動、木の玩具活動、手洗い水制限活動、廃材工作等、それぞれの活動においては、必ずしもSDGsに直結した知識にならないまでも、何でそうしたことを幼稚園時代に行ったのか、将来的に考えられる基礎を築くことができ、連続する小学校教育へのつながりになった。</p>
----------------------------	---

<p>8 効果検証 総括</p>	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 従来園で行っていたSDGs教育。今回の事業を通じて、よりグレードアップし、より継続して行えることを目標にして実施した。ユニセフとの取り組みは、ハウスに直接寄付しに行くことで、あれほど深い感謝の意を職員の方から示されるなど思いもよらないこともあった。募金とは?世界の他の国とは?等、子どもに理解が難しいと考えた内容も、すんなりと子どもたちの中に入り込むことができ、その家庭の意識までも変わることにつながったと思う。また、玩具の木製化や、SDGs絵本の整備は、園児の木等の自然に対する意識変化のみならず、地域の子育て世帯にもSDGsについて考える機会となった。今後は、自分たちでのやすり掛け等をしてメンテナンスをしながら大事に使おうとの話も子どもたちからでている。世間では、SDGsに関することは小学校以降のことが多く、幼稚園児向けに取り組みの計画をするのに難航したが、近い将来地球規模での取り組みが必要となれば、もしかしら幼稚園指導要領にも入ってくるのではと思い、今後様々な活動に挑戦していきたい。子どもたちが、出しっぱなしの水、つけっぱなしの電気、分別されないゴミにハラハラした気持ちになる些細な変化をもたらした大きな事業であった。職員研修等にも力を入れたので、今後も継続して同等の保育ができればと期待する。</p>
----------------------	---